

研究・調査報告書

報告書番号	担当
235	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>A time-series analysis of the impact of heavy drinking on homicide and suicide mortality in Russia, 1956-2002.</p> <p>ロシアにおける多量飲酒の殺人・自殺死亡率に対する影響についての時系列分析 (1956-2002年)</p>	
執筆者	
Pridemore WA, Chamlin MB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2006 Dec;101(12):1719-29.	
キーワード	
アルコール、多量飲酒、殺人、自殺、ロシア	
要 旨	
<p>背景： ソビエト連邦時代はその秘密政策のため、殺人あるいは自殺による死亡は死亡統計からは系統的に除かれ (5B とラベルされた)、他の表に集計されていた。この秘密政策が 1980 年代に終わり、その後殺人・自殺を含めた死亡統計が毎年公表されるようになり、またソビエト連邦時代の統計が研究者により調査されるようになった。アルコールの密造、密売などを含みアルコールの製造・流通には不明な部分が多いが、多量飲酒による社会に及ぼす不利益は大きく分析の必要がある。</p> <p>目的： 1956 年から 2002 年のロシアにおける多量飲酒の殺人・自殺に対する影響を評価する。</p> <p>方法： アルコール関連疾患 (慢性アルコール依存症、アルコール精神病、アルコール性肝硬変、アルコール中毒) による死亡率を多量飲酒 (アルコール消費量) の代わりに使用した。自己回帰統合移動平均方式 (autoregressive integrated moving average techniques) を用いて、男女合計および性別に、集団レベルでのアルコール消費量と殺人による死亡率、アルコール消費量と自殺による死亡率の関係をそれぞれモデル化した。</p> <p>結果： アルコール消費量と殺人による死亡率、およびアルコール消費量と自殺による死亡率死亡率の間に、有意な正の関連を認めた。この関連には時間的な遅延は見られなかった。これらの結果は、男女合計と性別のいずれの集計でもみられた。</p> <p>結論： 今回の結果は、Nemstov が示したロシアにおける飲酒と自殺の関連、および断面データで観察されたロシアにおける飲酒と殺人の関連に一致するものである。ロシアでのアルコール消費量、自殺および殺人の発生は、世界で最も高い水準にあり、飲酒のロシア国家の社会機構に及ぼす悪影響についての証拠が集積しつつある。飲酒による損害を防止する、多様な介入策が必要である。</p>	